

【1 青森県の推計人口】

2024(令和6)年7月1日現在

県人口 1,167,764人 (対前月1,044人減少)

- ・ **自然動態** 1,035人減少 (出生者数 386人、死亡者数 1,421人)
- ・ **社会動態** 9人減少 (転入者数 1,131人、転出者数 1,140人)

【2 本県の経済動向 2024(令和6)年5月・6月の指標を中心として】

(1) 経済概況

本県経済は、一部に足踏みもみられるが、緩やかに回復している。

(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 生産動向	・2024年5月の 青森県鉱工業生産指数 (2020(令和2)年=100)は、季節調整済指数が104.7で、前月比4.0%の上昇となり、3か月ぶりに前月を上回った。また、原指数は103.1で、前年同月比0.4%の低下となり、2か月連続で前年同月を下回った。	…5
(2-2) 雇用労働	・2024年5月の 定期給与 は230,265円で前年同月比2.5%増となった。 総実労働時間 は143.8時間で前年同月比0.2%増、 所定外労働時間 は7.7時間で前年同月比5.4%増となった。 ・2024年6月の 有効求人倍率 (季節調整値)は1.10倍となり、39か月連続で1倍を上回った。	…7
(2-3) 物 価	2024年6月の 青森市消費者物価指数 (2020(令和2)年=100)は、総合指数が109.8となり、前月比0.3%の上昇、前年同月比3.1%の上昇となった。また、生鮮食品を除く総合指数は109.2となり、前月比0.5%の上昇、前年同月比2.8%の上昇となった。	…10
(2-4) 個人消費 ※百貨店・スーパー販売額は更新なし	・2024年5月の 百貨店・スーパー販売額 は、157億円で全店舗ベースが前年同月比2.8%増となり、23か月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比1.0%減となり、2か月連続で前年同月を下回った。 ・2024年6月の軽乗用車を含めた 乗用車新車登録・届出台数 は3,342台で、前年同月比5.5%減となり、6か月連続で前年同月を下回った。 ・2024年6月の主な観光施設の 観光入込客数 は、82万6千人で前年同月比1.7%減となり、2か月連続で前年同月を下回った。また、主な宿泊施設の 宿泊者数 は、23万6千人で前年同月比0.3%増となり、2か月ぶりに前年同月を上回った。	…12
(2-5) 建 設 ※新設住宅着工戸数は更新なし	・2024年5月の 新設住宅着工戸数 は449戸で、前年同月比39.4%増となり、2か月ぶりに前年同月を上回った。 ・2024年6月の 公共工事請負金額 は171億400万円で前年同月比21.2%減となり、2か月連続で前年同月を下回った。	…17
(2-6) 企業倒産	2024年6月の 企業倒産 は、件数は2件で前年同月比80.0%減となった。負債総額は2億4,800万円で前年同月比97.3%減となり、2か月ぶりに前年同月を下回った。	…19

(3) 景気動向指数 (2024年5月分)

・先行指数	117.9 (前月を1.3ポイント下回り、3か月ぶりに下降した)	…20
・一致指数	121.7 (前月を1.2ポイント下回り、3か月連続で下降した)	
・遅行指数	90.1 (前月を3.1ポイント下回り、2か月連続で下降した)	

(4) 青森県景気ウォッチャー調査 (2024年7月期)

・3か月前と比べた景気の現状判断D I	53.9 (前期を0.7ポイント下回り、2期ぶりに低下した)	…21
・3か月後の景気の先行き判断D I	53.9 (現状判断D Iと同水準となった)	

1 青森県の推計人口【2024(令和6)年7月1日現在】

【概況】 現在の本県推計人口は、1,167,764人で、対前月1,044人の減少となった。

○自然動態 出生者数が386人、死亡者数が1,421人で、1,035人の減少となった。

○社会動態 転入者数が1,131人、転出者数が1,140人で、9人の減少となった。

総人口の推移

(単位:人)

	総数	男	女	対前月 増減率	増減数	自然 増減数			社会 増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数
						出生者数	死亡者数				
1970(昭和45). 10. 1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
1975(昭和50). 10. 1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
1980(昭和55). 10. 1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
1985(昭和60). 10. 1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
1990(平成 2). 10. 1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
1995(平成 7). 10. 1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
2000(平成12). 10. 1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
2005(平成17). 10. 1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
2010(平成22). 10. 1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
2015(平成27). 10. 1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
2020(令和 2). 10. 1	1,237,984	583,402	654,582	-	-70,281	-	-	-	-	-	-
2023(令和 5). 7. 1	1,188,044	560,321	627,723	-0.088%	-1,047	-1,079	488	1,567	32	1,220	1,188
2023(令和 5). 8. 1	1,186,920	559,830	627,090	-0.095%	-1,124	-1,048	477	1,525	-76	1,544	1,620
2023(令和 5). 9. 1	1,185,821	559,294	626,527	-0.093%	-1,099	-1,312	509	1,821	213	1,723	1,510
2023(令和 5). 10. 1	1,184,558	558,746	625,812	-0.107%	-1,263	-1,252	439	1,691	-11	1,304	1,315
2023(令和 5). 11. 1	1,183,497	558,229	625,268	-0.090%	-1,061	-1,254	491	1,745	193	1,395	1,202
2023(令和 5). 12. 1	1,182,185	557,638	624,547	-0.111%	-1,312	-1,281	465	1,746	-31	1,060	1,091
2024(令和 6). 1. 1	1,180,672	556,921	623,751	-0.128%	-1,513	-1,439	450	1,889	-74	1,047	1,121
2024(令和 6). 2. 1	1,178,731	556,031	622,700	-0.164%	-1,941	-1,637	443	2,080	-304	922	1,226
2024(令和 6). 3. 1	1,176,949	555,164	621,785	-0.151%	-1,782	-1,344	400	1,744	-438	952	1,390
2024(令和 6). 4. 1	1,170,621	551,791	618,830	-0.538%	-6,328	-1,365	382	1,747	-4,963	3,058	8,021
2024(令和 6). 5. 1	1,170,015	551,668	618,347	-0.052%	-606	-1,349	435	1,784	743	3,127	2,384
2024(令和 6). 6. 1	1,168,808	551,094	617,714	-0.103%	-1,207	-1,213	441	1,654	6	1,252	1,246
2024(令和 6). 7. 1	1,167,764	550,534	617,230	-0.089%	-1,044	-1,035	386	1,421	-9	1,131	1,140

1 青森県の推計人口(2024(令和6)年7月1日現在)

6月中の人口動態の推移

(単位:人)

年月	2014.6 (平成26.6)	2015.6 (平成27.6)	2016.6 (平成28.6)	2017.6 (平成29.6)	2018.6 (平成30.6)	2019.6 (令和1.6)	2020.6 (令和2.6)	2021.6 (令和3.6)	2022.6 (令和4.6)	2023.6 (令和5.6)	2024.6 (令和6.6)	
自然動態	出生者数	711	750	689	643	624	611	631	546	476	488	386
	死亡者数	1,283	1,357	1,330	1,317	1,361	1,314	1,421	1,446	1,422	1,567	1,421
	自然増減数	-572	-607	-641	-674	-737	-703	-790	-900	-946	-1,079	-1,035
社会動態	県外からの 転入者数	1,247	1,257	1,126	1,193	1,109	1,091	1,027	1,015	1,375	1,220	1,131
	県外への 転出者数	1,441	1,371	1,288	1,329	1,273	1,363	1,141	1,179	1,277	1,188	1,140
	社会増減数	-194	-114	-162	-136	-164	-272	-114	-164	98	32	-9
増減数計	-766	-721	-803	-810	-901	-975	-904	-1,064	-848	-1,047	-1,044	

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27、令和2年は国勢調査人口(確定値)。

※2 令和2年11月1日以降の人口は、令和2年国勢調査人口(確定値 総務省統計局 令和3年11月30日)を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27、令和2年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法：県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数(出生者数－死亡者数)＋社会増減数(県外からの転入者数－県外への転出者数)

2 本県の経済動向

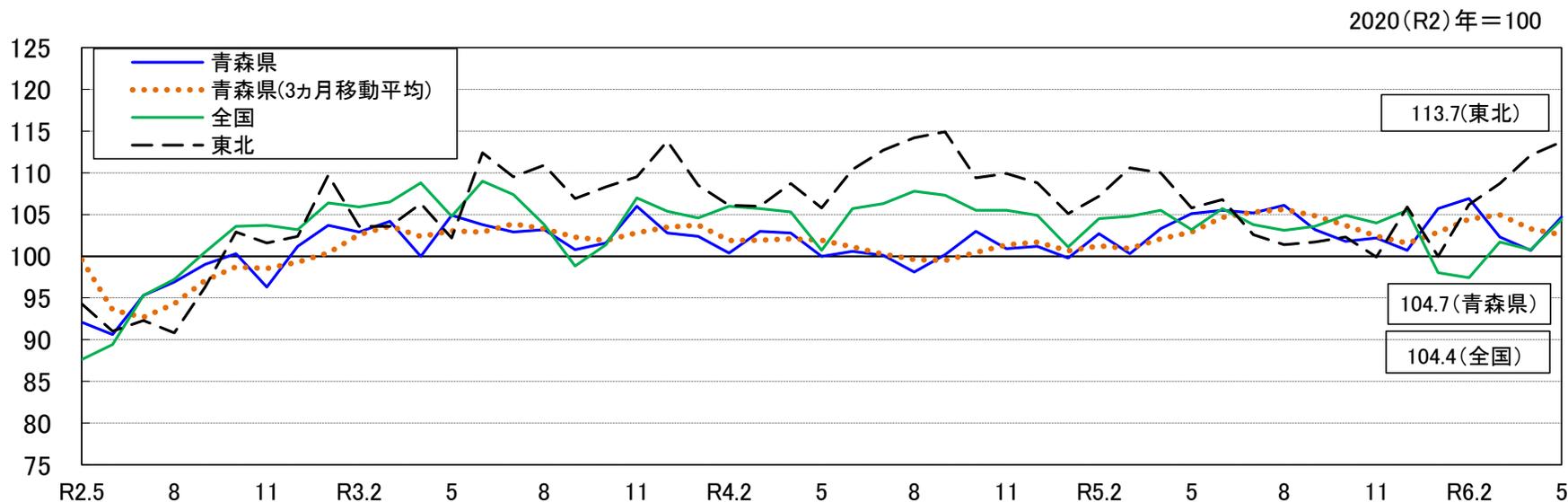
(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 生産動向

2024(令和6)年5月の青森県鉱工業生産指数(2020(令和2)年=100)は、季節調整済指数が104.7で、前月比4.0%の上昇となり、3か月ぶりで前月を上回った。また、原指数は103.1で、前年同月比0.4%の低下となり、2か月連続で前年同月を下回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、輸送機械工業、パルプ・紙・紙加工品工業、業務用機械工業等が上昇に寄与した一方、電子部品・デバイス工業、食料品工業、鉄鋼業等が低下し、鉱工業全体では4.0%の上昇となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移（季節調整済指数）



2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 生産動向

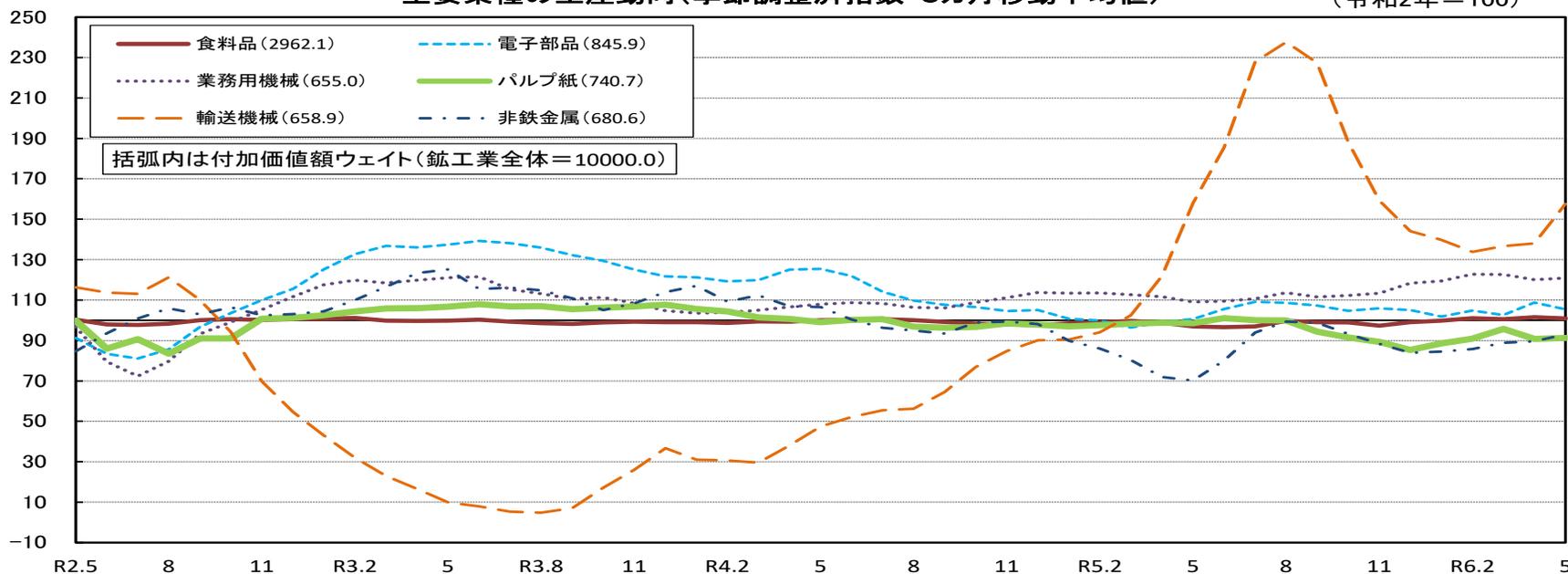
業種別動向（前月比） 鉱工業全体 4.0%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
輸送機械工業	22.4	35.2	電子部品・デバイス工業	-10.9	-16.7
パルプ・紙・紙加工品工業	18.2	17.4	食料品工業	-2.2	-10.7
業務用機械工業	13.3	15.5	鉄鋼業	-4.2	-2.2
電気機械工業	12.6	13.8	鉱業	-15.1	-1.8
生産用機械工業	99.6	11.2	印刷業	-5.0	-1.6

※寄与率とは、総合指数の上昇（低下）に対する、業種ごとの影響度を構成比で示したものであり、ポイント差とウェイトとの総合的な大きさで決まる。

主要業種の生産動向（季節調整済指数・3カ月移動平均値）

（令和2年＝100）



資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数（速報）」

2 本県の経済動向

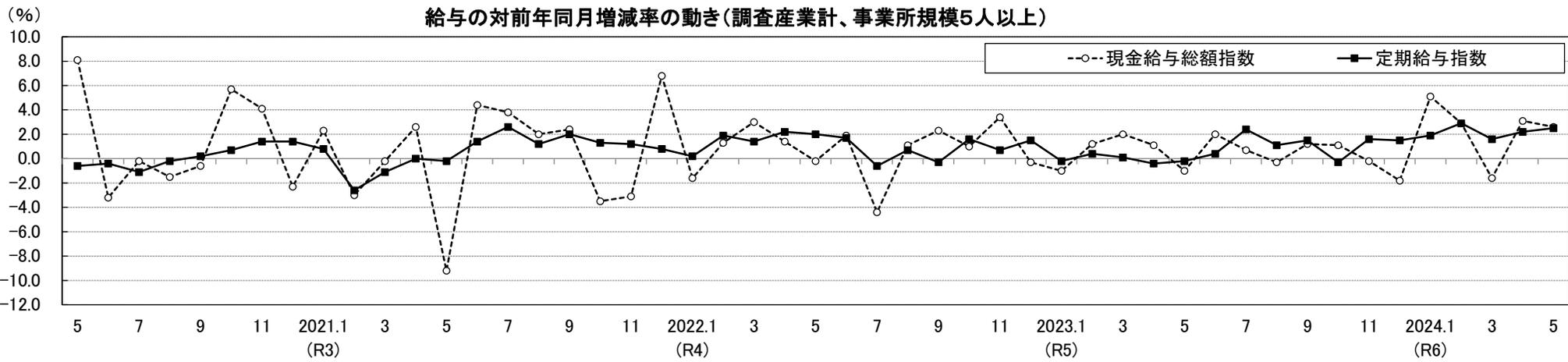
(2) 主要経済指標の動向

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間 (毎月勤労統計調査結果)

2024(令和6)年5月の定期給与は230,265円で、定期給与指数(2020(令和2)年=100)では103.5となり、前年同月比2.5%増と7か月連続の増(現金給与総額240,129円、現金給与総額指数91.8、前年同月比2.6%増)となった。

総実労働時間は143.8時間で、総実労働時間指数は97.6となり、前年同月比0.2%増と2か月連続の増となった。このうち、所定外労働時間は7.7時間で、所定外労働時間指数は81.9となり、前年同月比5.4%増となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

給与及び労働時間の全国との比較（調査産業計、事業所規模5人以上）

	実 数		指数（2020(R2)年=100）		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	240,129 円	297,151 円	91.8	93.3	2.6 %	1.9 %
定期給与	230,265 円	282,980 円	103.5	107.9	2.5 %	2.5 %
特別給与	9,864 円	14,171 円	—	—	—	-8.5 %
総実労働時間	143.8 時間	137.1 時間	97.6	101.5	0.2 %	1.2 %
所定内労働時間	136.1 時間	127.2 時間	98.6	101.0	-0.1 %	1.3 %
所定外労働時間	7.7 時間	9.9 時間	81.9	107.6	5.4 %	-1.0 %

- (注) 1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与(所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与)を含みます。
2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額(ベースアップ分)、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与(ボーナス)等のことです。
3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。
5. 2022(令和4)年1月分から各指数は基準更新により2020(令和2)年平均が100となるよう改訂しています。
6. 全国数値は2024(令和6)年5月分速報値です。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

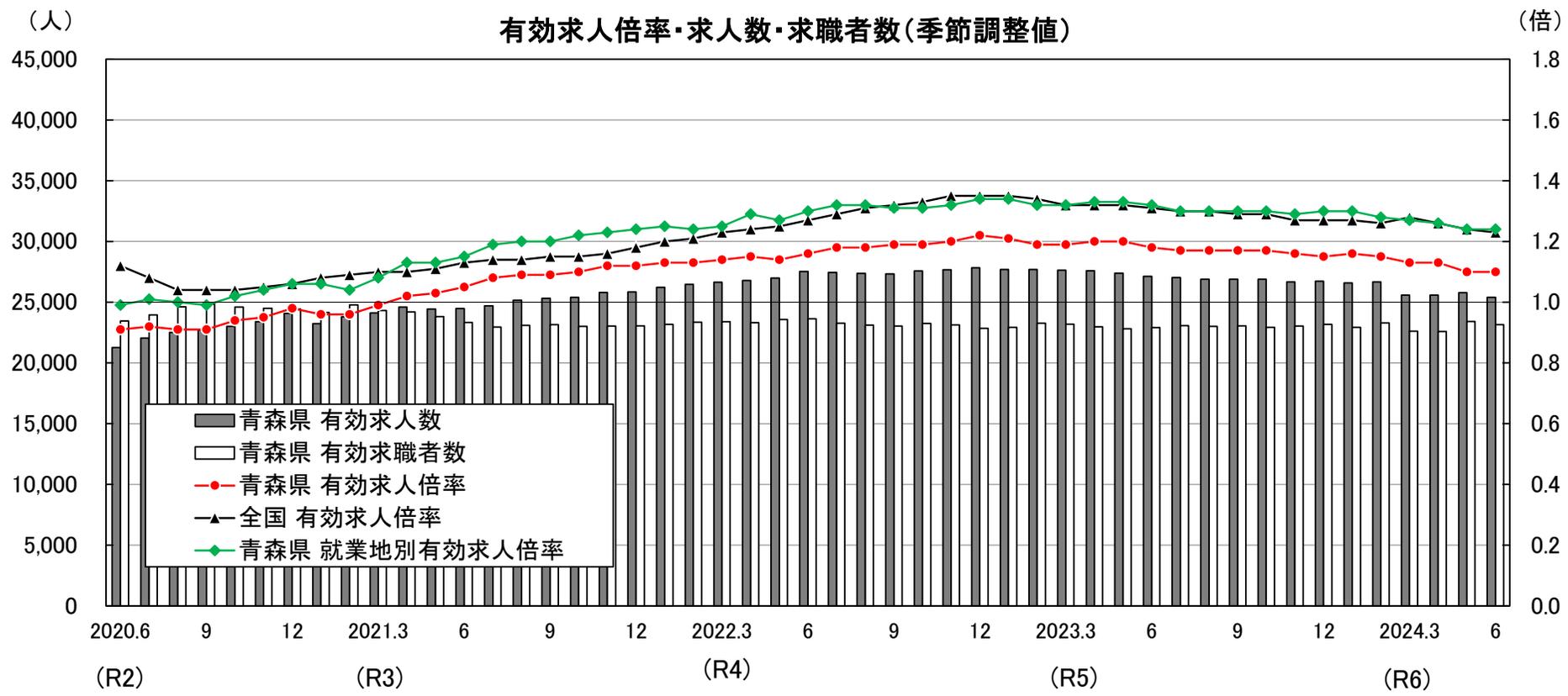
2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-2) 雇用労働

(2-2-2) 有効求人倍率

2024(令和6)年6月の有効求人倍率(季節調整値)は1.10倍となり、39か月連続で1倍を上回った。就業地別有効求人倍率は1.24倍となった。



資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」、厚生労働省職業安定局雇用政策課「一般職業紹介状況」

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-3) 物価

2020(令和2)年基準の青森市消費者物価指数は、2024(令和6)年6月において、総合指数が109.8となり、前月比0.3%の上昇、前年同月比3.1%の上昇となった。

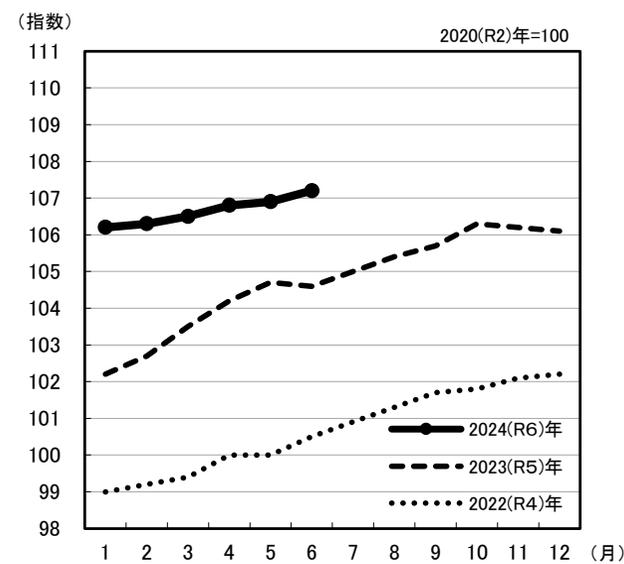
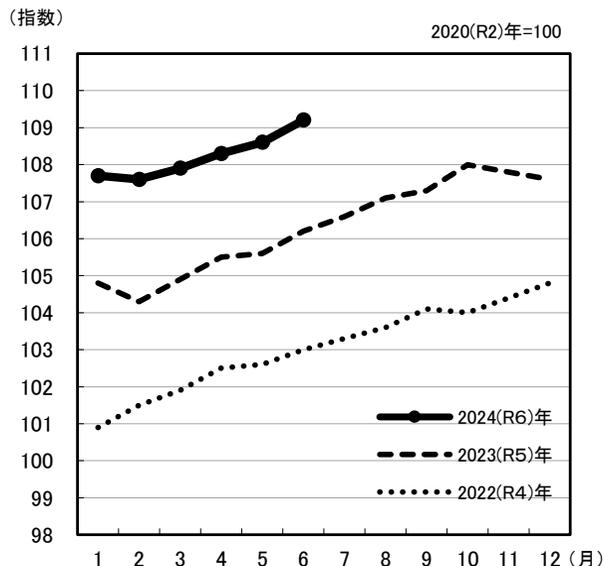
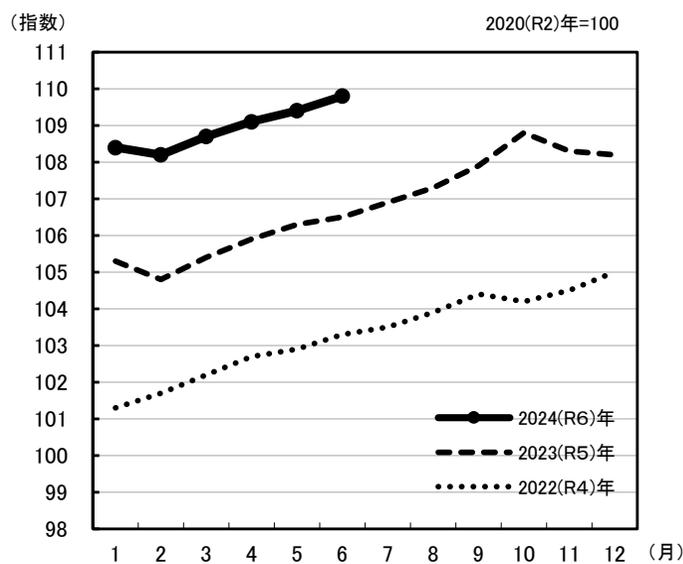
生鮮食品を除く総合指数は109.2となり、前月比0.5%の上昇、前年同月比2.8%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は107.2となり、前月比0.3%の上昇、前年同月比2.5%の上昇となった。

図1 総合指数の動き

図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-3) 物価

総合指数が前月比0.3%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、被服及び履物などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月比3.1%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、光熱・水道などの上昇が要因となっている。

10大費目指数の動き

(2020(R2)年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
当月指数	109.8	109.2	107.2	104.2	116.4	121.8	106.1	122.9	112.8	108.1	102.3	96.3	99.1	112.2	105.0
前月比(%)	0.3	0.5	0.3	0.1	0.0	▲ 3.4	0.0	2.3	0.4	0.9	0.4	0.1	0.0	▲ 0.2	0.0
寄与度	-	0.49	0.25	0.07	0.00	▲ 0.18	0.00	0.25	0.02	0.03	0.02	0.01	0.00	▲ 0.02	0.00
前年同月比(%)	3.1	2.8	2.5	2.5	3.7	10.0	1.7	4.8	4.3	2.1	1.9	2.2	▲ 0.1	6.6	1.0
寄与度	-	2.65	2.07	1.51	1.08	0.48	0.36	0.53	0.17	0.06	0.08	0.27	0.00	0.52	0.06

資料：県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

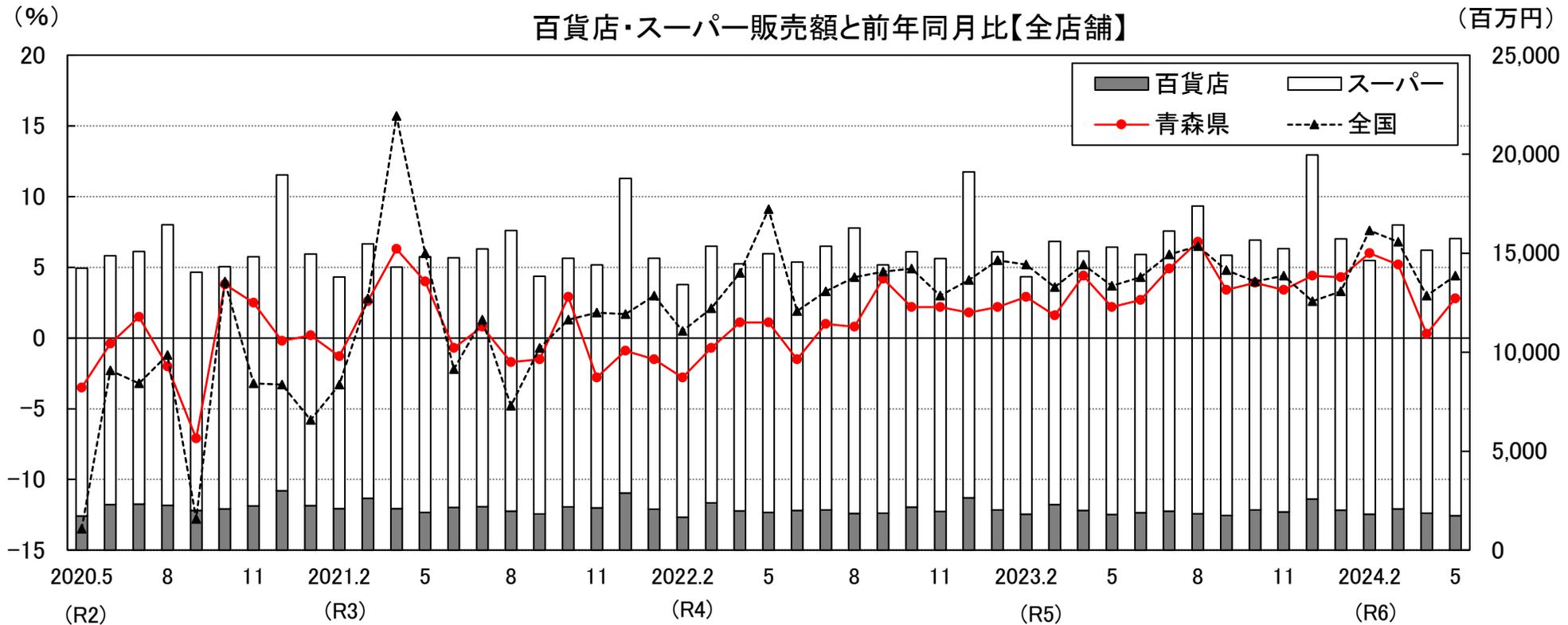
2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-4) 個人消費

(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額※更新なし

2024(令和6)年5月の百貨店・スーパー販売額は、157億円で全店舗ベースが前年同月比2.8%増となり、23か月連続で前年同月を上回った。



資料：経済産業省「商業動態統計速報」

※前年同月比は、調査対象事業所の見直しが行われた場合、この見直しによるギャップを調整するリンク係数で処理した数値で計算されている。

2020(R2).3月からは2016(H28)年経済センサス-活動調査に基づいた対象事業所の見直しがなされ、スーパー及び百貨店・スーパー合計額の前年同月比について、そのギャップを調整するリンク係数で処理された数値となっている。

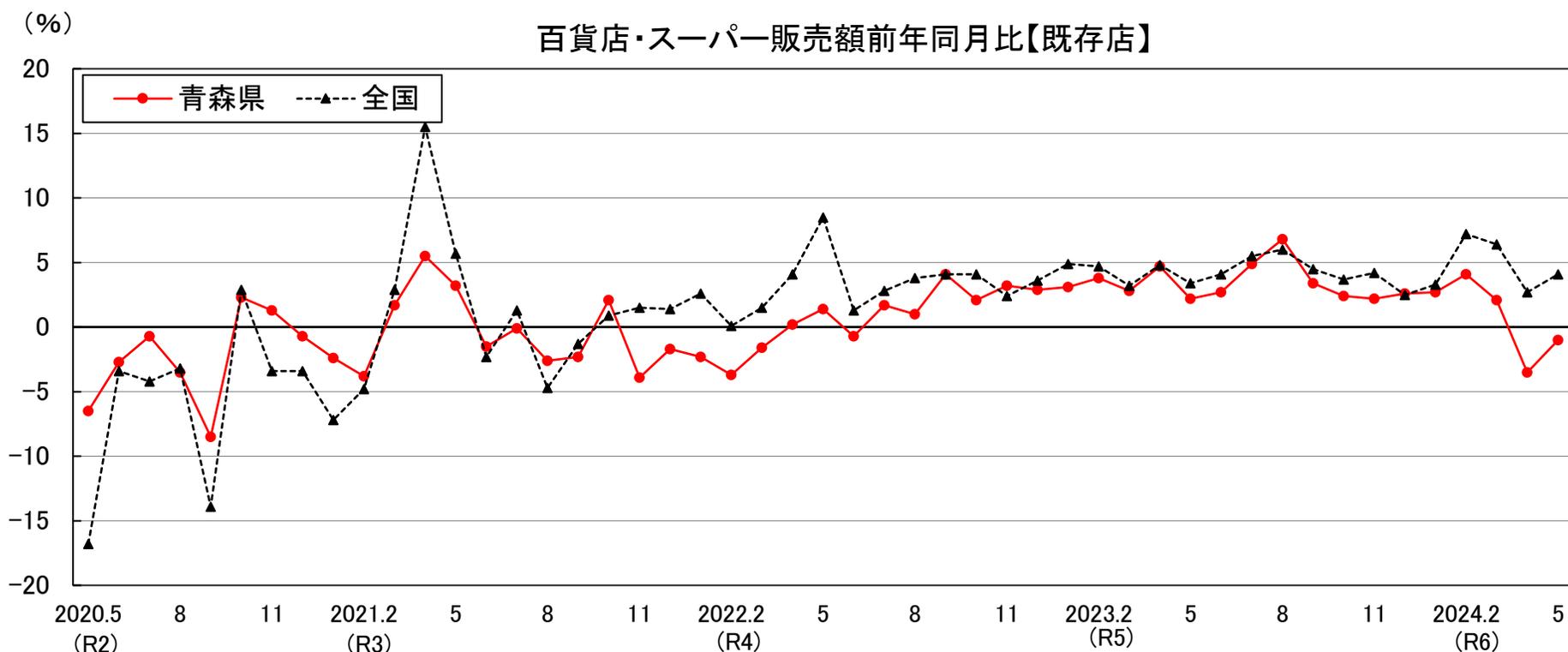
2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-4) 個人消費

(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額※更新なし

既存店ベースでは前年同月比1.0%減となり、2か月連続で前年同月を下回った。



資料：経済産業省「商業動態統計速報」

※百貨店は、従業者50人以上の小売事業所のうち、次のスーパーに該当しない事業所であって、かつ、売場面積が1,500平方メートル以上の事業所をいう。スーパーは、売場面積の50%以上についてセルフサービス方式を採用している事業所であって、かつ、売場面積が1,500平方メートル以上の事業所をいう。ただし、商業動態統計調査の家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンターの調査対象企業の傘下事業所で、調査対象となっている事業所を除く。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている事業所をいう。

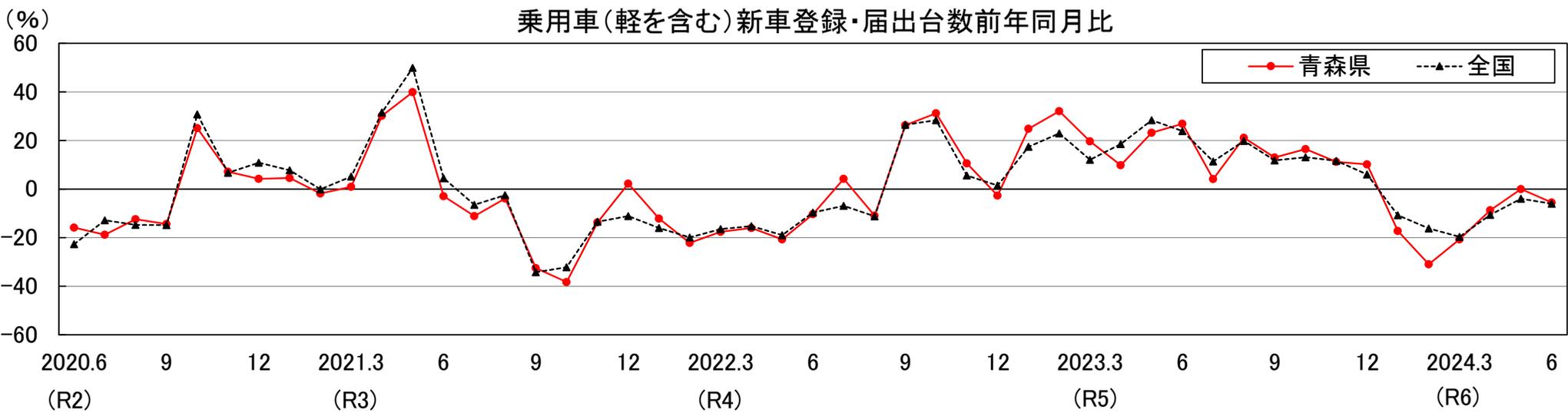
2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-4) 個人消費

(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

2024(令和6)年6月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は3,342台で、前年同月比5.5%減となり、6か月連続で前年同月を下回った。普通車、小型車が減少したことによる。



資料：日本自動車販売協会連合会青森県支部「自動車登録状況 新車月報」、同連合会「自動車統計データ」

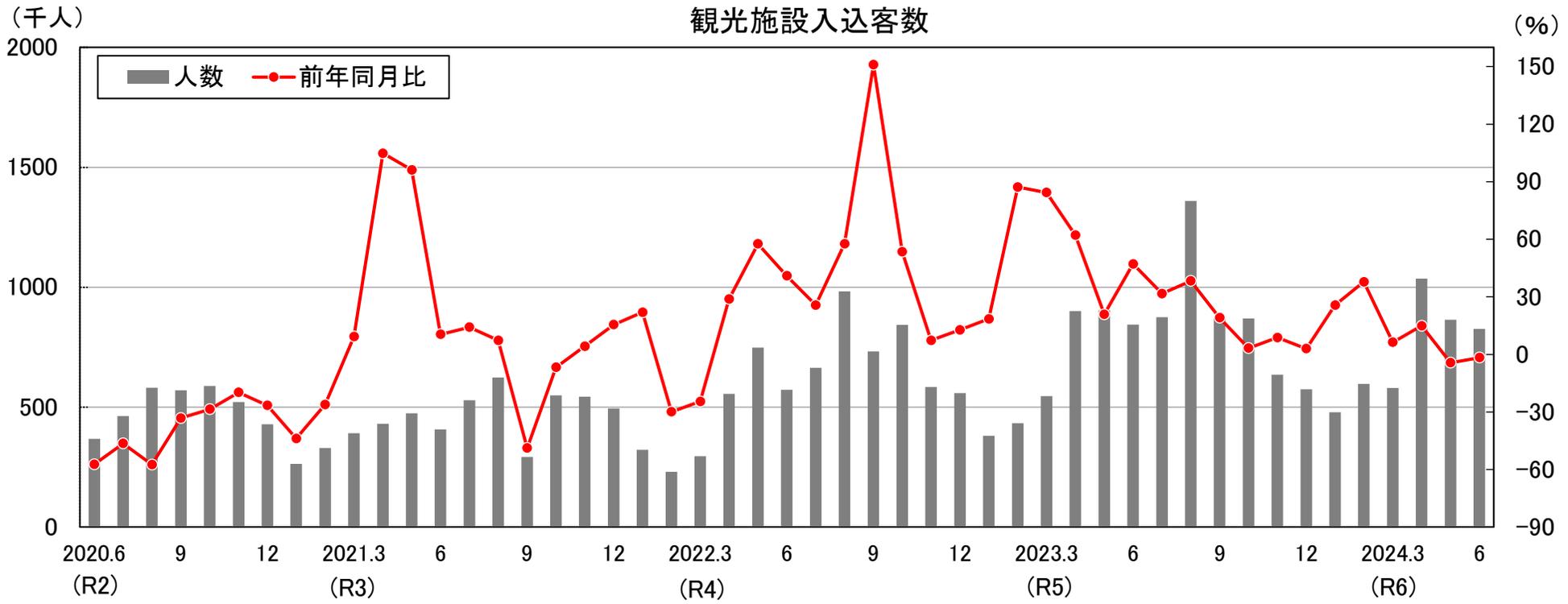
2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-4) 個人消費

(2-4-3) 観光入込客数・宿泊者数

2024(令和6)年6月の主な観光施設の観光入込客数は、82万6千人で前年同月比1.7%減となり、2か月連続で前年同月を下回った。



資料：県観光政策課「月例観光統計」

※観光施設34施設 (2012(H24)年1月～2014(H26)年3月は35施設、2014(H26)年4月～2016(H28)年12月は34施設、2017(H29)年1月～2018(H30)年12月は35施設、2019(H31)年1月～2024(R6)3月は34施設対比、2024(R6)4月以降は33施設対比)

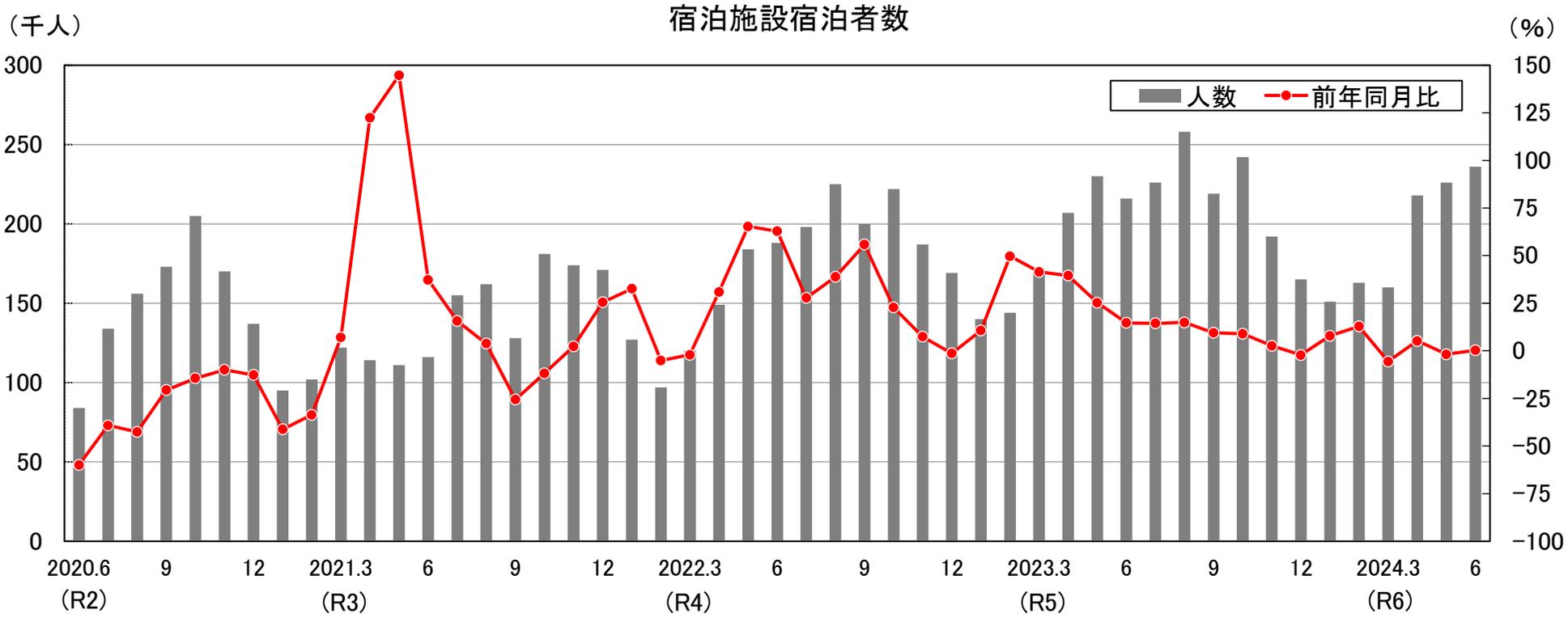
2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-4) 個人消費

(2-4-3) 観光入込客数・宿泊者数

主な宿泊施設の宿泊者数は、23万6千人で前年同月比0.3%増となり、2か月ぶりに前年同月を上回った。



資料：県観光政策課「月例観光統計」

※宿泊施設 全県75施設 (2018(H30)年6月まで79施設、2018年7月は78施設、2018年8月～2019(R1)年5月は79施設、2019年6月～7月は80施設、2019年8月～2020(R2)年3月は78施設、2020年4月～5月は77施設、2020年6月～10月は76施設、2020年11月～2023(R5)年3月は75施設、2023年4月は74施設、2023年5月～2024(R6)3月は71施設対比、2024(R6)4月以降は75施設対比)

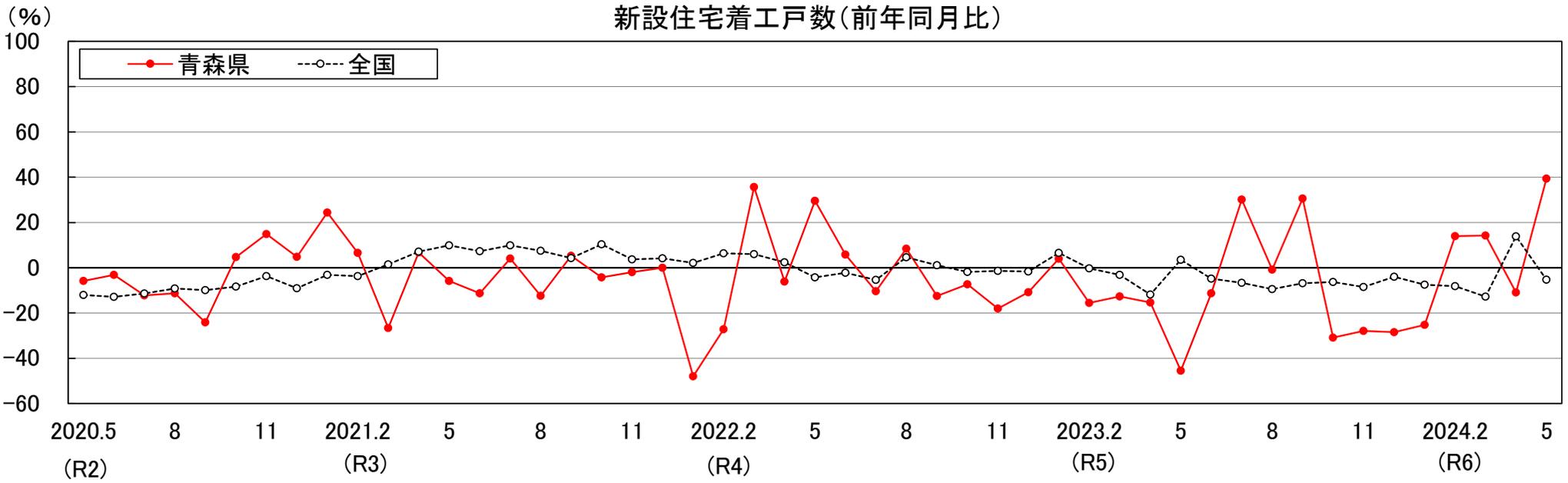
2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-5) 建築

(2-5-1) 住宅建築※更新なし

2024(令和6)年5月の新設住宅着工戸数は449戸で、前年同月比39.4%増となった。貸家が増加したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建築着工統計調査報告」

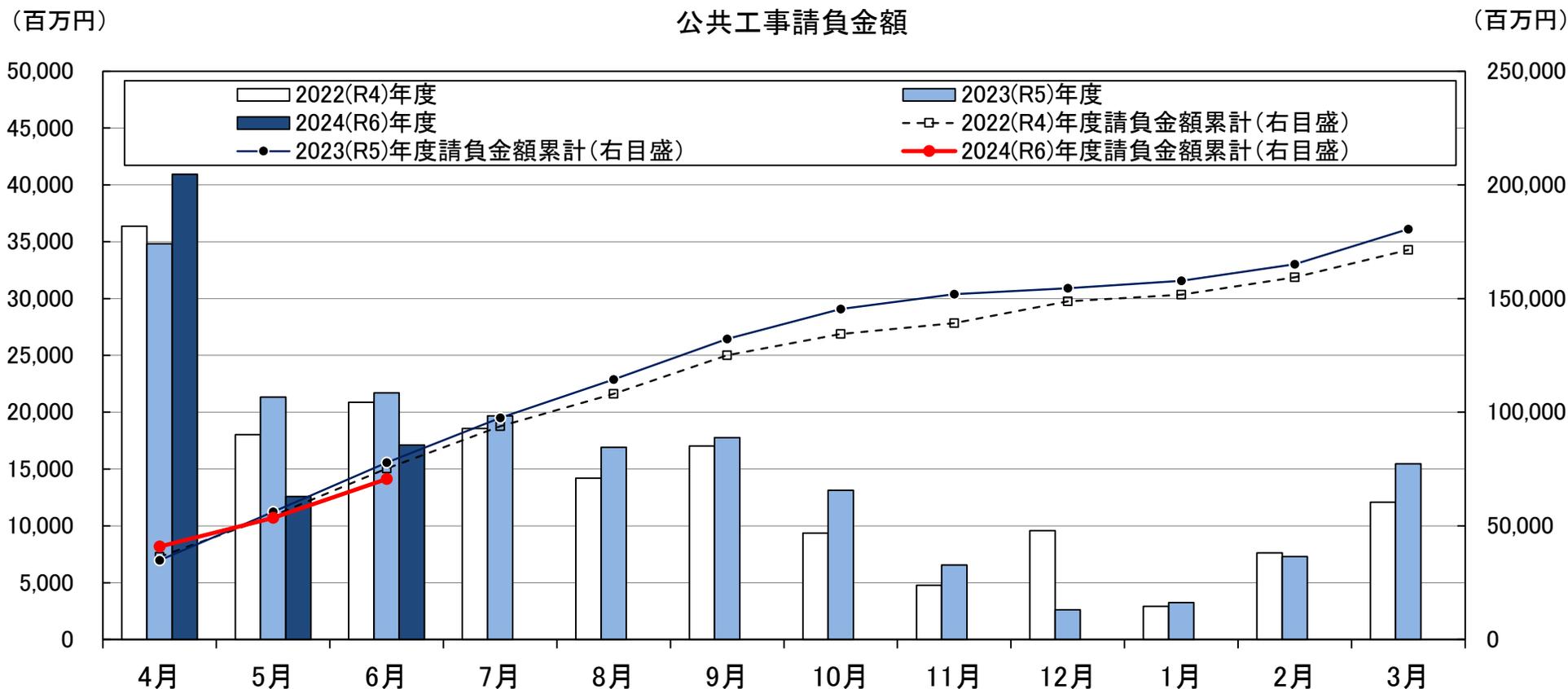
2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-5) 建築

(2-5-2) 公共工事

2024(令和6)年6月の公共工事請負金額は171億400万円で前年同月比21.2%減となり、2か月連続で前年同月を下回った。



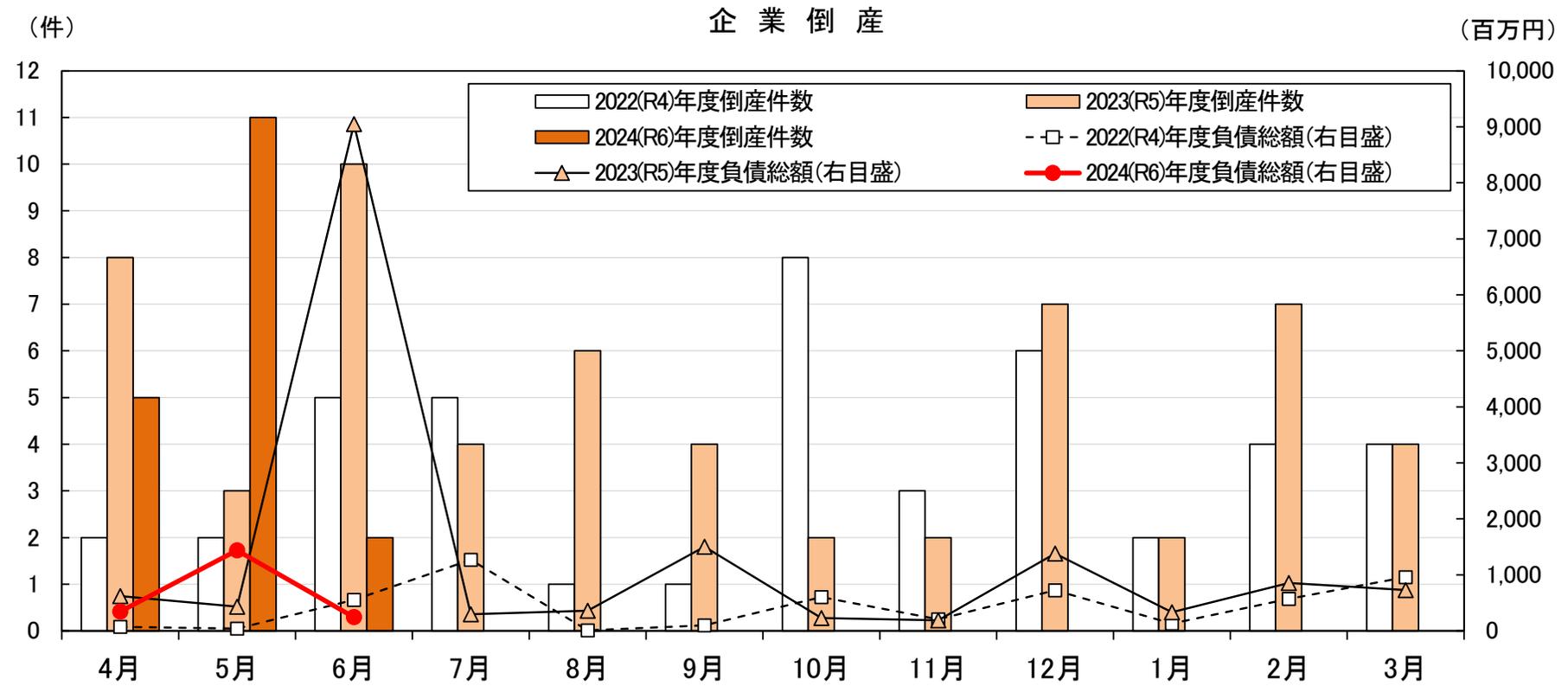
資料：東日本建設業保証(株)青森支店「～前払金保証からみた～青森県内の公共工事の動向」

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-6) 企業倒産

2024(令和6)年6月の企業倒産は、件数は2件で前年同月比80.0%減となった。負債総額は2億4,800万円で前年同月比97.3%減となり、2か月ぶりに前年同月を下回った。



資料：(株)東京商工リサーチ「青森県企業倒産状況」

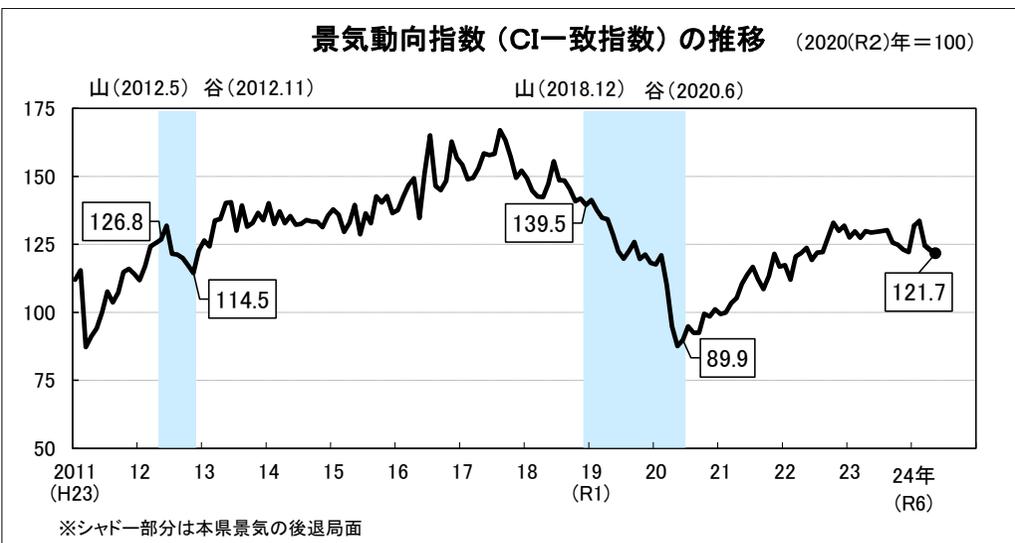
2 本県の経済動向

(3) 青森県景気動向指数

2024(令和6)年5月の青森県景気動向指数(CI)は、先行指数117.9、一致指数121.7、遅行指数90.1となった。

- ・先行指数：前月を1.3ポイント下回り、3か月ぶりに下降
- ・一致指数：前月を1.2ポイント下回り、3か月連続で下降
- ・遅行指数：前月を3.1ポイント下回り、2か月連続で下降

5月の一致指数は、消費・雇用・流通関連の一部の指標がマイナスになったことから下降した。



●個別系列の動き (各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています)

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
新設住宅着工床面積	3.27	2か月ぶり	新規求人倍率(全数)	-5.90	3か月ぶり
乗用車新車登録届出台数	2.20	3か月連続	企業倒産件数(逆サイケ)	-3.15	2か月ぶり
日経商品指数(42種)	1.84	3か月連続	中小企業景況DI	-1.77	2か月ぶり
生産財生産指数	1.14	2か月ぶり			
建築着工床面積	0.95	3か月ぶり			
一致系列					
投資財生産指数	1.64	4か月ぶり	観光入込客数	-2.73	2か月ぶり
鉱工業生産指数	1.42	3か月ぶり	有効求人倍率(全数)	-2.24	2か月ぶり
百貨店・スーパー販売額(既存店)	0.89	3か月ぶり	輸入通関実績(八戸港)	-0.29	2か月ぶり
所定外労働時間指数(全産業)	0.14	2か月ぶり			
遅行系列					
定期給与指数(全産業:実質)	1.91	2か月連続	りんご消費地市場価格	-2.89	5か月ぶり
家計消費支出(勤労者世帯:実質)	0.81	2か月ぶり	公共工事請負金額	-1.90	2か月連続
県内金融機関貸出残高	0.52	2か月ぶり	有効求職者数(全数)(逆サイケ)	-1.46	2か月連続
			青森市消費者物価指数(総合)	-0.22	3か月連続

(参考) 青森県景気動向指数(DI)

- 先行指数 37.5% (4か月ぶりに50%を下回った)
- 一致指数 57.1% (5か月連続で50%を上回った)
- 遅行指数 28.6% (2か月連続で50%を下回った)

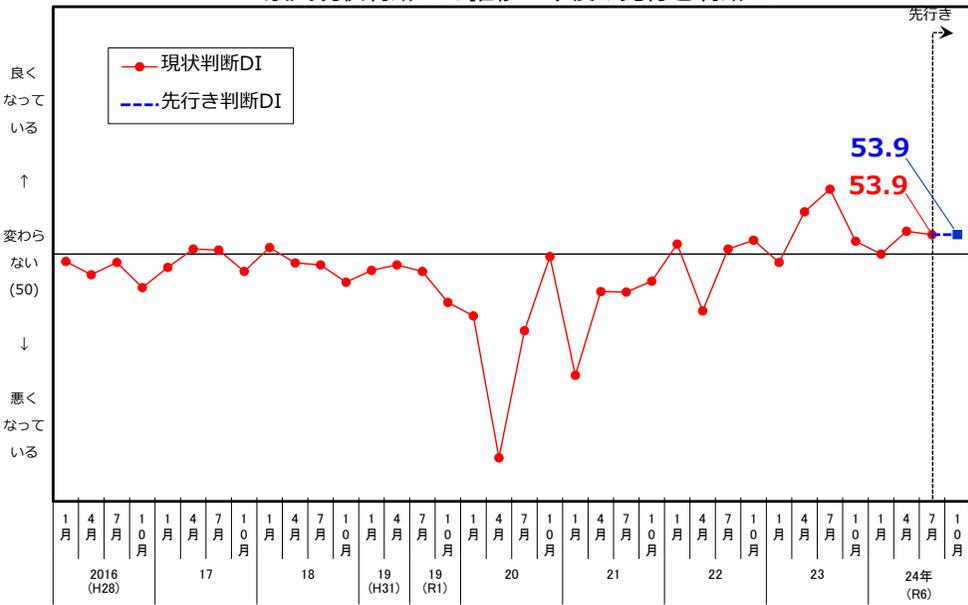
2 本県の経済動向

(4) 青森県景気ウォッチャー調査 (2024年7月期)

現状判断DIは、円安による原材料価格の高騰や、物価・エネルギー価格の高止まりにより、個人消費の低迷が長引いているという声が多くあった一方で、観光需要がインバウンドを含めて回復し、宿泊・飲食サービス業を中心に景況感が上向き、全体を押し上げているといった声もみられ、前期比0.7ポイント低下の53.9となった。

先行き判断DIは、物価の上昇に賃金の上昇が追いついておらず、物価高の長期化から、消費者の節約志向が高まっているといった声が多くあった一方で、各地夏祭りに伴う観光客や帰省客も見込まれていることから景気の上向きを期待する声もみられ、現状判断DIと同水準の53.9となった。

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

調査期間：調査期間 2024(令和6)年7月1日～2024(令和6)年7月19日
回答率：96%

- ・3か月前と比べた景気の実況判断DIは53.9となり、景気の横ばいを示す50を上回った。
- ・3か月後の景気の先行き判断DIは53.9となり、景気の横ばいを示す50を上回った。

● 3か月前と比べた景気の実況判断

前期調査と比べると、「良くなっている」が0.1ポイント上昇、「やや良くなっている」が1.7ポイント低下、「変わらない」が3.7ポイント低下、「やや悪くなっている」が9.5ポイント上昇、「悪くなっている」が4.1ポイント低下となった。全体では53.9となり、前期から0.7ポイント低下したものの、景気の実況判断DIを示す50を上回った。

判断理由では、円安による原材料価格の高騰や、物価・エネルギー価格の高止まりにより、個人消費の低迷が長引いているという声が多くあった一方で、観光需要がインバウンドを含めて回復し、宿泊・飲食サービス業を中心に景況感が上向き、全体を押し上げているといった声もみられた。

前期調査と比べて、東青で2.6ポイント、県南で2.5ポイント、下北（参考）で3.6ポイント上昇し、景気の実況判断DIを示す50を上回った。津軽では8.6ポイント低下したものの、景気の実況判断DIを示す50と同水準となった。

● 3か月後の景気の先行き判断

今期調査の実況判断DIと比べると、「良くなる」が1.1ポイント低下、「やや良くなる」が1.1ポイント低下、「変わらない」が5.2ポイント上昇、「やや悪くなる」が3.1ポイント低下、「悪くなる」が同水準となった。全体では53.9となり、今期調査の実況判断DIと同水準となり、景気の実況判断DIを示す50を上回った。

判断理由では、物価の上昇に賃金の上昇が追いついておらず、物価高の長期化から、消費者の節約志向が高まっているといった声が多くあった一方で、各地夏祭りに伴う観光客や帰省客も見込まれていることから景気の上向きを期待する声もあった。

今期調査の実況判断DIと比べて、東青で3.5ポイント、津軽で0.9ポイント上昇し、景気の実況判断DIを示す50を上回った。下北（参考）では8.3ポイント低下したものの、景気の実況判断DIを示す50を上回った。県南では1.6ポイント低下し、景気の実況判断DIを示す50を下回った。

2 本県の経済動向

(4) 青森県景気ウォッチャー調査 (2024年7月期)

○3か月前と比べた景気の現状判断理由

◎	4、5月は駅東口駅ビル開業など中心街の再開完了、行動制限のないGW、国内人流の活性化、過去最多数のクルーズ船寄港や航空国際定期便再開をはじめとするインバウンドの回復等、好材料が目に見え、且つきちんと数字にも表れている。6月も観光業界では、絆まつりが当市で開催された昨年の数字を上回っている。(一般小売店=東青)
○	総会後の懇親会がコロナ禍前のように通常開催する団体が多くなり、飲食店も潤ってきているのではないかと感じる。また観光客も昨年と比べて増えてきているように感じられる。その反面、物価高騰で家計や会社の経費が圧迫されていると思われる。(ガソリンスタンド=下北)
○	新施設もオープンし、街なかの人通りが増えてきている。GWにはインバウンドを含め観光客も多く、飲食店の予約も非常にとりづらいう状況であった。現在、昨年の暑さの記憶が新しいのと実際に暑さが早く来たので季節商品の動きも活発。(商店街=東青)
○	季節的な関係や各種イベントなどで、人出が増えている。そんな要因と考えられる。(一般飲食店=県南)
○	食料品関係では、円安、原材料高、消費者の節約志向による売上の伸び悩みが影響し、景況は下向きである。ただし、観光需要がインバウンドを含めて回復し、宿泊・飲食サービス業を中心に景況感が上向き全体を押し上げている。(経営コンサルタント=東青)
□	3か月前はさくら祭り期間であり、観光客等の需要があったが、現在は、特に何もない。(レストラン=津軽)
□	全体的には上向きに感じられるが、地元関係者の状況を見ると決して景気が良いとは感じられない。また4月からの働き方改革が物流コストアップや納期遅れに影響し建設業においては工事工程に大きく影響している。地元企業では賃金アップがあまり見られない上に、生活コストの値上がり日々の生活と将来投資を後ろ向きにしている。(住宅建設販売=東青)
□	物価の上昇は止まらず、家計における消費支出が控え目になっているように感じられる。貯蓄性向が高いと言われていたが、その部分においてかろうじて均衡を保っている状況ではないかと思う。(ガソリンスタンド=県南)
□	観光などを中心に売上が伸びていると聞いているが、その利益が労働者に回っている実感がない。(求人情報誌=東青)
□	仕事量はほぼ変わらないが、物価上昇や円安の影響で仕入れ金額も上がり利益が下がっている。かと言って簡単に値上げも出来ず売上が下がっている。(広告・デザイン=県南)
△	小売業を中心に円安によって原材料の輸入価格が上昇し、物価高となり個人消費の低迷が長引いている。また、人手不足から賃上げに踏み切る中小企業が増えているが、物価高で実質賃金マイナスが続く2022年から家計悪化となる深刻な状況と考える。(家電量販店=東青)
△	業種業界によって景気観に差はあるが、全体的に円安、原燃料費高騰に係る課題が未だ解決できておらず、企業経営が厳しい様に見える。(人材派遣=県南)

○3か月後の景気の先行き判断理由

◎	駅東口駅ビル開業など中心街の再開完了、行動制限のないGW、国内人流の活性化、過去最多数のクルーズ船寄港や航空国際定期便再開をはじめとするインバウンドの回復等による効果が、ねぶた祭～お盆～秋の行楽まで引き続き持続すると思われるから。(一般小売店=東青)
○	現在、先四半期まで仕事の受注は増えているため。(旅行代理店=東青)
○	夏祭りやお盆の帰省で県外からの来訪客が増えると思われるため。海外からの観光客が増えれば良いのだが…。(ガソリンスタンド=下北)
○	8月からの「酷暑乗り切り緊急支援」、物価高の中で食費の高騰などに苦しんでおられる年金世帯や低所得者世帯を対象として、追加の給付金で支援の二段構えの対策での効果を期待する。(広告・デザイン=東青)
○	各地夏祭りに伴う観光客や帰省客も見込まれていることから景気は上向きになるのではないかと。(経営コンサルタント=津軽)
□	コロナ禍はいろんな補助金があったが今は全くない。あってもお米券で商店街には関係ない。(設計事務所=津軽)
□	夏場はどうしても暑さで売上が落ちるような。今年は去年よりもねぶた期間中の予約が入ってきてるで、少し期待はしてるがどうなるかは読めない状態。(レストラン=東青)
□	物価高の長期化で消費者の節約志向は続くが、夏祭りシーズンを迎えるにあたり、円安の影響で訪日外国人の購買意欲が高まりサービス消費が好調となる。また値上げ品目数は減少傾向にあり、価格上昇は減衰するとみられる。(家電量販店=東青)
□	週末の人の出が以前ほど感じられないし、週前半は酷いものだ。むしろ昨年のコロナ明け直後よりも悪いかも。帰宅時間も早まり、生活消費物価の高止まりも著しく家計を圧迫する力は思った以上に強いと感じている。人々の暮らしも既に守りの体制に入ってしまったように感じるし、景気がいいのは円安の恩恵を受けている外国人だけで、日本人はひたすら我慢を強いられている。対岸の火事だったいわゆる「観光公害」も身近に迫ってきている様だ。キャッシュレスの加速と新紙幣発行のタイミングも現象としては矛盾しているのかも。(タクシー=東青)
□	戦争が終わったり電気自動車(BEV)の実用性が上がるなど何らかの変化が起これば良いと思いますが、3か月前位では変化は少ないと思います。(電気機械製造=県南)
△	夏の特需時期を過ぎれば買い物や宴会などが落ち着くため。(卸売業=県南)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」